

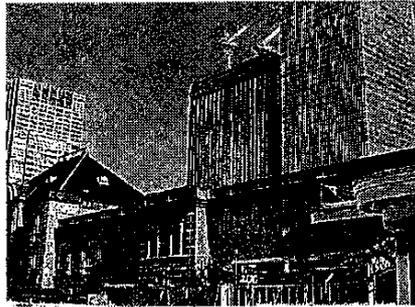
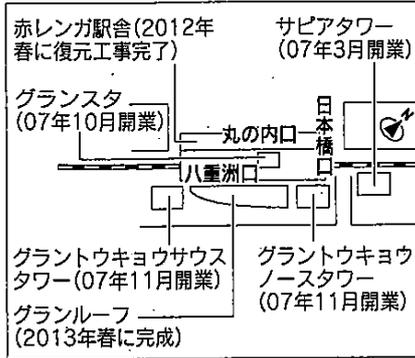
街をつくる

東京駅周辺の姿が大きく変わってきている。昨年は八重洲口側に、計十四大学の事務所が入る高層ビルや、商業施設が入居するツインタワーなどが相次ぎ開業。東京駅丸の内駅舎を開業当時の姿に戻す工事も始まる。ビジネス街としての機能に、文化や娯楽といった新たな要素が加わり「東京の表玄関」としての存在が増している。

○七年三月に八重洲口北方面に開業した地上三十五階建ての高層ビル「サビアタワー」。十階の事業創造大学院大学(新潟市)の東京キャンパスでは、大型テレビに映る約三百メートル離れた本

東京駅周辺、大型商業施設など続々

「首都の表玄関」多彩な顔に



昨年11月に開業したツインタワーが赤レンガの丸の内駅舎後方にそびえる

記者の目

駅の構造複雑化ソフト面に課題
東京駅周辺ではツインタワーなど、地域の核となる商業施設が生まれるにつれ、カッパルやフェアリーが休日を訪れるケースも増えているという。JR東日本など開発事業者の狙い通り、東京

駅周辺の街の魅力は高まっているといえる。ただ、急速に開発が進むなかで、東京駅の構造がより複雑になったとの声も聞こえる。頻繁に利用するビジネスパーソンですら道に迷うほど、施設は広大だ。誰でも分かるように、赤レンガで親しまれた丸の内駅舎が、約九十年前の開業当時の姿に復元される。また、八重洲口にある旧大丸のビルを取り壊すほか、バス乗り場を整備し、ツインタワー間を全長約二百四十メートル、高さ最大二十七メートルの巨大な屋根「グランルーフ」で覆う工事が、一三年春まで続く。

「二十世紀の東京にふさわしい姿に変わる時がきた」と森田雅文・東京都都市整備局開発プロジェクト推進室長が語る。シエクト推進室長が語るように、歴史的な景観を保ちつつ、より現代的な機能を持つ都市に姿を

ビジネス街に文化・娯楽

校の講義に、受講生が熱心に耳を傾ける。同大では夜間にビジネススクールの講義を受講できる。「仕事帰りに通って便利」と都内の会社で働く三十代の女性は笑顔で話す。

14の大学が入居
同タワーに入居する大学の高岡琢磨・営業部マネジャーは語る。

サビアタワーが文化的要素を持つ施設なのに対し、娯楽施設の整備も急ピッチで進む。昨年十月には丸の内側と八重洲側を結ぶ東京駅の地下通路「サビアタワー」だ。ノーヤウノウスタワー」は、同タワーの地下一階から五千人から〇六年には三十八万二千人に増えた。丸の内ビルディングなど大型の複合商業施設が、相次いで建設されたのに合わせて、訪問客が増加。

さらに東側できる環境が整った」と、京駅の新たなランドマクとなるクトグループタワーは満足げだ。

景観改善に焦点
東京駅の一日平均の利客は〇二年の三十七万五千人から〇六年には三十八万二千人に増えた。丸の内ビルディングなど大型の複合商業施設が、相次いで建設されたのに合わせて、訪問客が増加。

住建・不動産